

高木復興大臣仙台空港ぶら下がり記者会見録
(平成28年6月8日(水)1230～1235 於)宮城県仙台空港)

1. 発言要旨

さきほど仙台空港を視察させていただきました。「仙台空港を海外との玄関口にする」というグローバル・ゲートウェイ構想を伺わせていただいて、仙台空港は正に東北6県の基幹インフラだと認識をいたしておりまして、インバウンドや交流人口拡大のチャンスを活かして、この仙台空港を通じて東北を活性化したいという思いでございます。

復興庁としても、東北観光アドバイザー会議の提言を具体化させて、東北観光復興対策交付金も活用して、強力に支援していきたいと考えております。

仙台・ゲートウェイ戦略を推進して、海外の方々に東北のスノーリゾートや雪を体験していただき、正に「東北ブランド」というものを世界に発信していきたいと思っておりますし、それに、この仙台空港というものは非常に重要な施設だというふうに思います。

旅客のみならず、農水産品の輸出も期待しております。水産業・水産加工業の復興につきまして、昨日ちょうど水産加工品の商談会がございましたけれども、海外販路の開拓を目指すという声も加工業の方からお伺いをいたしました。復興庁としても「新しい東北」輸出拡大モデル事業で、全力で応援していきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 先ほど、仙台国際空港の岩井社長からも民営化に係るお話をお聞きになっていましたけれども、仙台空港を東北観光において、どのような役割を果たして欲しいと思っておりますか。

(答) このゲートウェイという形で、ここにまず入ってきていただいて、そして、そこから、三陸はもとよりでありますけれども、北海道などへも行っていただく。そして、北海道から出て行っていただく。あるいは逆に、北海道や成田から入ってきて、北関東なども観光していただいて、そして東北に入ってきていただいて、この仙台空港から出て行っていただく。いずれにしても、入ってくる時も、出ていく時も、この東北の観光という意味においては、この仙台空港というものが核になるというふうに考えておりますので、7月1日から民営化されますけれども、さらに便数も増えて、あるいはビルの運営においてもしっかりと人が集まるような、そういう施設にしていただいて、正にその東北観光の復興の拠点になっていただきたいと思います。

(問) インバウンドに関して、この仙台空港に対する期待をお聞かせください。

(答) 今年、28年度予算にも東北観光復興対策交付金というものを計上させていただきましたし、そうした中で、このゲートウェイとしての仙台空港がこれからどうなっていくかということをしつかりと策定をしていって、正に先ほど来申し上げているとおり、この仙台空港というものが東北観光の拠点となっていくべく支援していきたいと思えます。

(問) 復興庁としての支援というのは、具体的にどうなりますか。

(答) 海外へのプロモートというのはもちろんさせていただいておりますし、いろんなモデル事業というのでしょうか、要するに復興商品というのでしょうか、そういったようなものも考えなければいけないと思えますし、そしてまた、もちろん、それぞれの県が独自の考えで、いろんなものを商品提供していただけていると思えますが、併せて、広域的に捉えていくということも大事でありまして、これから復興庁としてはそういった広域的なものをどう醸成していくかというところにも、やはり力を注いでいく必要があるのだらうと思えます。それぞれの県でもしっかりとやっていたいただきますけれども、それをしっかりと広域的なものにしていく、そういった環境づくりを進めていきたいと思えます。

(以 上)